

和泉市の歴史1『横山と槇尾山の歴史』正誤表

	誤	正
9頁年表	八世紀半ば 山林修業	山林修行
10頁年表	一七二二	一七二三
11頁年表	一七八一	一七八〇
11頁後2行目	しゅぎょうだい(執行代のルビ)	しぎょうだい
54頁表1 7	三綱	三綱
90頁10行目	ふうじんちょう(「風信帖」の)ルビ)	ふうしんじょう
113頁9行目	「布引き谷」	「布引瀧」
124頁3行目	むろおじ(室生寺のルビ)	むろうじ
163頁4・5行目	矜羯羅童子	矜羯羅童子
178頁8行目	ほうじ(傍示のルビ)	ほうじ
182頁5行目	こうずけのすけ(上野介のルビ)	こうずけのすけ
213頁写真12	文録3(1594)年	文禄3(1594)年
216頁10行目	名前帳の	名寄帳の
221頁図3	延享年中(1744～47)	延享年中(1744～48)
230頁6行目	槇尾川添い	槇尾川浴い
262頁図10	阿闍利	阿闍梨
263頁後11行目	和泉郡	泉郡
264頁表10注	表8の門中の色	表9の門中の色
280頁表14注	朱印部分は	朱字部分は
280頁表14注	(追加)	史料に香積坊の記載もれがあるか。
289頁4行	(俱利伽羅竜王)	(俱利迦羅竜王)
291頁12行	こんからどうじ(矜迦羅童子のルビ)	こんがらどうじ
309頁表18	天保14(1844)	天保14(1843)
316頁5行	しんごんやそぞう(真言八祖像のルビ)	しんごんはっそぞう
316頁7行	りゅうもう(龍猛のルビ)	りゅうみょう
320頁2行目	安永九(一七八一)年	安永九(一七八〇)年
332頁写真42	寛政10(1796)年	寛政10(1798)年
352頁表25	慶応4年入寺者 旧里河村	旧里側河村
365頁図15	出開張	出開帳
372頁1行目	北田中村勘助	北田中村勘七
374頁16行目	演出されたのある	演出されたのである
381頁表32	横山谷の村むらの村高と人口	横山谷の村むらの村高
395頁後8行目	寛政七(一七八五)年	寛政七(一七九五)年
410頁5行目	がじいみや(梶井宮のルビ)	かじいみや
417頁5行目	上杉泰賢は、明治五(一八二七)年	上杉泰賢は、明治二(一八六九)年から明治五(一八二七)年
433頁表6	1888(明治22)年	1888(明治21)年
441頁後2行	表12は両村の	表12は横山村の
470頁表16	1918(T10)	1921(T10)
477頁後2行目	独占していたわけではないことが	独占していたわけではないことが
478頁後2行目	十等以下は、全体の一パーセント	十一等以下は、全体の三パーセント
490頁9行目	一〇二戸は兼業であり、	一〇三戸は兼業であり
490頁13行目	七戸三一人にすぎないが	五三戸二七五人であるが
491頁6行目	農産物一六五万円に	農産物一六五四万円に
499頁7行目	むらうけせいむら(村請制村のルビ)	むらうけせいそん
506頁後5行目	西暦七九四 和暦一三	西暦七九四 和暦延暦一三
506頁後4行目	八〇五 二四 最澄天台宗を開く	削除
506頁後3行目	八〇六 大同元 空海真言宗を開く	八〇六 大同元 最澄天台宗を開く 空海唐から帰国する
508頁8行目	西暦一四七八 和暦一〇	西暦一四七八 和暦文明一〇
508頁10行目	西暦一五一四 六十六部回日行者	西暦一五一四 六十六部回国行者
508頁後5行目	西暦一五九四 和暦文禄三	西暦一五九四 和暦文禄三
509頁後8行目	西暦一六六一 和暦寛文三	西暦一六六三 和暦寛文三
511頁14行目	西暦一七八一 和暦安永九	西暦一七八〇 和暦安永九
511頁後3行目	西暦一八三四 和暦 五	西暦一八三四 和暦天保五
514頁1行目	西暦一九一二 和暦 (空白)	西暦一九一二 和暦四五
514頁11行目	西暦一九三〇 八月	西暦一九三〇 九月